

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	市職員(福祉職・障がい児療育センターの運営)、社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら、「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)S(奉仕)を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」など、グループを基本にして全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や、参加意識を深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアとは(グループ討議)
3. グループ発表とキーワードを見つける
4. ボランティアの基本理念と歴史
5. 地域でのボランティア活動の実際
6. 社会福祉施設等でのボランティア活動の実際
7. 災害とボランティア(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
8. 国際社会とボランティア(子どもの貧困を中心に)
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験(1)
11. ボランティア活動の体験(2)
12. 体験活動の記録化と振り返り
13. グループ討議と発表
14. プレゼンテーション(体験活動の成果)
15. まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

講義に加えて、グループ討議とプレゼンテーションを取り入れていく。ボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習を通じて準備していく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法

3日間のボランティア活動記録とボランティア体験活動のレポート及びプレゼンテーションによる。

欠席について

グループ討議や作業もあり原則は認めない。1回の欠席につき3点、遅刻は2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

3日間の体験活動への参加をはじめ、集団学習に取り組むことが必要である。体験の実践にあたり個別相談や個別指導を第9回～第11回の講義内で行う。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②		17509	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを旨とする。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の一部は地域の子育て支援活動にいかす。

授業計画

1. 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
2. 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
3. 造形的な視点 色と形の出会い
4. 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
5. 絵に表す活動 パスを使って
6. 絵に表す活動 筆やペンを使って
7. 立体に表す活動 土粘土を使って
8. 立体に表す活動 教材用粘土を使って
9. 工作に表す活動 伝統文化と関連して
10. 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
11. 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
12. 生活に役立つものを作る 防災の視点で
13. 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
14. 情報機器を活用した活動
15. 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法

①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。